未来に向けた取り組み
事業部紹介シリーズ 10

写真や図表で見る
全農のいま

くらし支援部

主な事業内容
- Aコープ店舗事業
- ライフライン支援事業
- 共同購入事業
（JAくらしの宅配便など）
- 訪問展示事業
- 頒布会事業

地域のくらしを支える全農のくらしサポート最前線

くらし支援部は、地域生活者の日々の生活を支える3つの主要事業を展開しています。Aコープ店舗事業は、地域密着の販売拠点として新鮮な国産品を届けるほか、地域交流を深める活動を推進。ライフライン支援事業は、流通企業と連携して店舗活性化と移動販売を強化。JAくらしの宅配便事業は、品質にこだわった商品を自宅までお届けするサービスを提供しています。地域の課題に寄り添い組合員の毎日を支える最新の取り組みを紹介します。

FILE 1

Aコープ店舗事業

Aコープ店舗事業は、地域のくらしを支え、国産農畜産物を届ける販売拠点として、地域の皆さまとの交流を大切にし、愛されるお店づくりを目指しています。

最近の取り組みでは、お買い物の楽しさや食への興味、関心を広げ、Aコープのファンになっていただきたいとの思いから、子ども向けお仕事体験知育アプリ『ごっこランド』に出店しました。また、農産物直売所を併設した「ファーマーズ型店舗」の展開にも力を入れており、2030年に累計70店舗（現在全国49店舗）の出店を目指し進めています。

ごっこランドのダウンロードはこちら

Aコープが「ごっこランド」に登場

FILE 2

ライフライン支援事業

人口減少や消費不況の影響で、地域の小売店舗の撤退が進むなか、「地域のくらしの拠点」としてJA購買店舗の重要性が高まっています。

くらし支援部は、全日本食品、山崎製パン、ファミリーマートなど様々な企業と提携を強化し、店舗規模に応じた業態転換メニューを提案しています。2030年までに、提携店舗を352店舗、移動購買車を146台に増やすことを目標に、地域生活拠点の維持と活性化に取り組んでいます。

移動スーパーとくし丸

FILE 3

JAくらしの宅配便事業

「JAくらしの宅配便」事業は、JAグループのプライベートブランド「エーコープマーク品（※）」を中心に、食料品や日用品など組合員のくらしを豊かにする商品を、ご自宅や指定の場所までお届けするサービスです。

エーコープマーク品の魅力を伝えるファンコミュニティサイト「Aむすび」を活用し、新規利用者への購入促進や会員拡大のPR活動強化を進めています。

※エーコープマーク品は、国産原材料を優先的に使用し、独自の品質基準に基づいて開発したJAグループのオリジナル商品です。

JAくらしの宅配便カタログ

エーコープ
国産野菜を使った
農協のとろあまソース
（2025年4月発売）

エーコープ
回鍋肉の素
（2024年9月発売）

Aむすびポスター

私が所属する店舗事業課は、全国にあるAコープ店舗への商品供給や販売促進、エーコープマーク品の開発、JA購買店舗の業態転換や移動購買車の導入支援など、幅広い業務を担っています。

私が携わるライフライン支援事業は、高齢化や地域の過疎化といった社会課題に対し、「全農として何ができるか」という視点をベースに進めており、今後も必要とされる事業であると自負しています。先輩方がJAとともに築き上げてきた既存店舗の維持を大切にし、組合員やJAの日々のくらしを支える一助となれるよう、今後も取り組んでいきます。

JA全農くらし支援部
店舗事業課
上瀧 珠花子さん
2022年度入会。くらし支援部でライフライン支援事業を担当し、地域のくらしの活性化の実現に向けて、継続的な店舗経営のための業態転換や移動購買車の取り組みをJAに提案している。

全農 ZEN-NOH　JA全農事業ビジョン2030はこちら

エーコープマーク品コミュニティサイト Aむすび

次回はフードマーケット事業部
「届けよう、国産のチカラ。情報発信から始まる消費拡大」9月22日（月）掲載予定